

令和 8 年度第 1 回 静岡市図書館協議会会議録

1 日 時 令和 8 年 8 月 14 日 (金) 午前 10 時～12 時

2 場 所 静岡市立中央図書館 2 階 ホール

3 出 席 者 (委員) 那珂会長、豊田副会長、青木委員、石上委員、大橋委員、勝山委員、永田委員、
西山委員

(事務局) 西島教育局次長、山梨中央図書館長、伊藤中央図書館副館長兼管理係長、
海野中央図書館サービス係長、高田御幸町図書館長、田島西奈図書館長、
仲山薫科図書館長、石川北部図書館長、佐藤南部図書館長、
照内長田図書館長、鎌田清水中央図書館長、杉山清水興津図書館長、
杉山蒲原図書館長、宮本中央図書館麻機分館主任主事、
坂下中央図書館サービス係主査(再)、中川同主任主事、
大橋同会計年度任用職員

4 欠 席 者 海野委員、宮城島委員

5 傍 聴 者 5 人

6 議 題 (1) 令和 7 年度事業報告
(2) 令和 8 年度事業計画
(3) その他

7 会議内容

(1) 令和 7 年度事業報告

事務局(サービス係長) 令和7年度の事業概要報告

事務局(御幸町図書館長) 御幸町図書館の事業報告

事務局(南部図書館長) 南部図書館の事業報告

事務局(清水興津図書館長) 清水興津図書館の事業報告

那珂会長 ただいまの事業報告の説明に対しまして委員の皆様からご意見、またご質問をお願いいたします。

永田委員 御幸町図書館の大人の司書体験に参加させていただきました。普段見ることができない様子を見ることができて大変良かったと思っています。予約がすぐに埋まったので、他にもやってみたい方も多いと思います。内容などを少し変えて開催をしていただいて、中の様子を詳しく体験してみたい。楽しく参加させていただいたので感謝しております。

事務局（御幸町図書館長） ありがとうございます。色々なイベントを企画するにあたり、ひとりでも多くの方に参加していただきたいので、御幸町図書館の限られたスペースを最大限に生かして大人の司書体験を初めて開催しましたが、参加した皆さんが自然に笑顔になるような感じで体験していただいていたので、大人の司書体験、こども司書体験も同様でございますので、今後も継続していきたいと考えております。

豊田副会長 44ページの福祉サービスが気になったので意見と質問と両方ですが、まず意見としては「福祉サービス」という名称はずっと前から使っていますが、読書バリアフリー法もでき、そういう括りの中で考えていくのが普通になっているので、この名称については、一度ご検討いただいた方がいいと思っています。それから、先ほど南部図書館のいろいろな取り組みのご紹介がありましたけれども、南部をはじめ各館で読書バリアフリーについていろんな取り組みをされていますので、福祉サービスのところにそういったものも入れていった方がいいのでは。

そのうえで質問ですが、障害者用録音図書の貸出数の減少ですが、録音図書貸出数の推移あるいはその相互貸借の点数の推移について、どんな見解をお持ちなのかということをお伺いしたいと思います。

事務局（中央図書館主査） 福祉という言葉については検討していきたいと思います。利用している方が高齢化で、だんだん少なくなっていると感じています。図書館を通さず、自宅で自分でダウンロードして使っている方もだんだん増えていることも考えられます。市の障害者福祉担当からは、若い方は自分でダウンロードして聞いているから、全然こういうものを必要としない、今の状況で満足しているというお話をお聞きしたので、図書館を通して、録音図書を借りるということも今後は減ってくるのではないかと感じております。ただ、利用者が少ないので、広報の必要性は感じております。

豊田副会長 私も貸出が増えればいいと考えているわけではなく、むしろ全体として読書バリアフリーの状況はどういうふうになるのか、そのなかで今図書館がやるべき役割は何なのかということを考えてうえで、そのことについてちゃんと発信するなり、あるいは、今までの取り組みを見直していくということがすごく大事だと考えております。その一環として南部図書館の取り組

みもまとめて、読書バリアフリーで図書館はこんなふうにやっていますということを出していくことがすごく大事ではないかと思っていますので、ぜひそういった視点で検討いただきたいと思います。

大橋委員 各図書館の特色に合わせて創意工夫されたプログラムを毎年企画運営されていることが、去年と今年の資料でもわかって本当にありがたいと思います。共同開催という事業が重要だと思っています。図書館だけの発信ではなくて、いろいろ寄り添ってくれるパートナーを探してやっていくことが、相互に効果を生むのであろうということで、書店との協力や高校生による読み聞かせ、オーク長田のこども未来講座のように、共同開催というのは簡単なことではないですけれども、潜在的な利用者層を開拓していく意味では重要であろうと思います。あるいは、不読者数を下げるためにも必要じゃないかと思っています。

良い取り組みがあって、この会議では成果を見える化してもらっていますが、成果を市民にもアナウンスしていく必要があると思います。いろんな方法があると思うのですが、例えば御幸町ですと、入ってすぐに過去の掲示物が今もちゃんと飾ってあって、それが図書館の手作りではなくて、参加した中高生の字で書いてあるということが、次の層を生んでいくのではないかなと思っていて、データベース化するなり、アーカイブを作るなりして、それが一つの高校ではなくて、その地域の高校に啓蒙していくと思います。今後中高生の部活は変化を大きくしていきますので、その部活の新しい受け皿というか新しい文化的な活動というのを、中高生の層を開拓することも大事だと思いますので、それは意見としてお願いしたいと思います。

那珂会長 各館特色のあるイベント取り組みをされていて、一つ一つはいいけれども、それがそこで完結してしまって、図書館としてこういう文化的な取り組みをやっています、シビックプライドを醸成するような取り組みを行っていますということが、一般市民に対して十分伝わっているかという、やっただけで終わってしまう。やるところまではいいけれども、それをきっちと静岡市立図書館全体として、一般市民に発信できているかというそうではない気がします。年報を見れば、こういうふうに行っているというのはわかりますが、一般市民はこれを見ていないと思いますので、やったということを図書館のホームページにどんどん掲載して、それぞれの館のやったことではなく、全体としてどういうことをやっているのかをちゃんと発信することが必要だと感じています。

大橋委員 そうです。財産としてもったいないので、それを活かしましょうということです。

事務局（サービス係長） ありがとうございます。全体というところで検討して進めさせていただきたいと思います。

西山委員 静岡の図書館がやるべきことはどんなことなのか。市民がどういう形で図書館の情報を利用するのか、あるいはこちらから打って出るのか、図書館は建物があって、そこに来てもらうというのが前提にあるんですけども、移動図書館もありますよね。豊田委員がおっしゃったように、来館者数が増えれば本当にいいのかということもあるんじゃないかな。どうやって図書館を利用してもらって、いわゆる知的な要求の部分をフォローしていくというようにいろんな取り組みがあるんじゃないか。今インターネットの時代ですから、利用方法も違うんですよね。今日ちょっとありましたけど、NHKで放送すると、ぱっと人が来る。だからイベントの開催もタイムリーにできればいいですけども、そうもいかない。もし、そういうイベントの情報を流しても、私が見れないんですね。オンラインができる、あるいは携帯で取れれば、その情報が手に入るんですけども、入らないんですね。図書館へ来ていただいて、あるいはこちらから情報を出して満足していただけるかという方策は、非常に難しいと思うんですけども、学校のイベントだと来てくれる人が結構増えるんですね。学校と組むとか幼稚園と組むとかあるんじゃないかなと思うのですが、その辺も考えていったらいいんじゃないかと思います。

豊田副会長 一つの事業をやるときにいろいろな周辺の状況、例えば福祉サービスであれば、今読書バリアフリーサービスという大きい括りのなかで、いろんなものが世の中動いてきているなかで、本当に一部分なわけですから、もしかすると、ここにいろいろな支援、例えばお金や人手を集中するよりは、今の状況だったらそれ以外のところに力をかけた方がいいのかもしれないわけです。それはそれですごく大変なことですが、そういうことが今、図書館だけではないですけども、いろんなところで公共のサービスに求められているのではないかと思ったので、先ほどのような話をさせていただきました。もちろんやっていることについてちゃんと発信することはすごく大事なことで、協議会に出てそれで終わりではあまりにももったいないので、まず第一歩として少なくとも年報にはちゃんと載せていただきたいと思います。

那珂会長 図書館の役割が時代とともに変化してきていると思います。かつての貸出中心主義、貸出点数や来館者数さえ伸びればということから、居場所の創出や電子図書館の役割も非常に重要視されてきていると思います。いろいろ出てきたお話をまとめますと、おそらくいろいろやる必要があるけれど、静岡市立図書館として一体どういう方向性でいくのか、図書館だけではない、読書バリアフリーや、それから御幸町図書館で言えば、多文化共生の全体的な流れのなかで、図書館をどのように位置づけていくのか。それぞれの館ごとに特色のあるイベントはあるけれども、それが全体として、今後どの方向に図書館が向かっていく

のかがなかなか見えづらい。静岡市立図書館の役割、方向、方針をもう少し明確化して、それに対する事業をしっかり年報の中に落とし込んでいく形が望ましいと思っております。

図書館としてどういう方向でいくのか、これから何を目指していくのか、全体の中で図書館の位置づけ、こういったところがもう少し明確になっていけば、それぞれの館でやっている様々な素晴らしい取り組みがこういうことを目指すため、こういう課題を解決するためだとわかれば、多分より多くの市民に対して、魅力なり意義をアピールできるのではないかと、結果として、利用者の促進に繋がっていくのではないかと考えています。

勝山委員 今おっしゃられた図書館の役割の明確化ということも含めて、情報発信の必要性が言われるのではないかと思います。御幸町図書館の非常に前向きな、特に書店とのコラボというのはなかなか踏み込めるようで踏み込めないイベントだと感じました。そういった中で、その情報発信の必要性も含めてですけれども、情報が単館で終わることなく、静岡市図書館全体のものとして共有されるということの一番大きなメリットというのは、市民にとって図書館に行けば、何か新しいことがある、発見がある、面白いことがある、ワクワクすることがあるというような、そういう気持ちを発信することによって、市民に来ていただく。それが、来館者数あるいは貸出数、図書館に興味を持つ、これからどういう方向で図書館がいくのかというところに関心を持つということにも繋がってくるのではと感じました。

青木委員 私にとって図書館は小さい頃は本を借りに行く所でした。たくさん本があって、読んでない本が山のようにあって、たくさんの知らないことを知ることができる場所でした。図書館の役割がだんだん変わってきたということは、いろいろな方々の話を聞いて感じました。例えば居場所の問題とか、誰かが来るのを待っているのではなく、図書館の方からいろいろなイベントや働きかけをして呼びかけてくれる。今は楽しいことがたくさんあって本をあまり読まない子も多いようですし、きっかけになるような種をたくさん撒いてくれる図書館だと感じております。電子図書館が全くわかりませんが、そういうことも今の時代はとっても大切なことで、どんどん変化していくのかなと身をもって感じています。時代の流れと皆が求めるものが変わってくるので大変だと思いますが、これからも図書館には、基本は本がある、借りることができる、本を楽しむことができるというところを大事にしていきたいと思っています。

石上委員 私は南部図書館を主に利用させていただいています。駅に近い方なので南部図書館と御幸町図書館、中央図書館もたまには気分を変えようかなというときにバスに乗ってきますが、交通の便がすごく悪くて、ここに来るにもバスが1時間に2本しかありません。駿河区に住んでいますが、南部に行くにもいったん駅まで出て、乗り換えて行かないと行け

ない。歩いたら40分以上かかってしまう。暑い中、自転車で行くのも熱中症が大変ということで、図書館協議会の話ではない、鉄道や社会の問題ですけど、交通の便が良くないということで図書館に行けないのは、残念なことだと思います。その辺が何とかなればいいかなと思っています。今はなんとか自転車で行けますが、もし自転車がこげなくなったら、本当に行くことができなくなります。これから高齢化社会になるにつれて、図書館自体に行けないという方がすごく増えるのではないかと思います。その辺はどのように解決していくのか、またインターネットの時代になっても、それに追いついていけない方もいっぱいいらっしゃると思います。そういうことがやはり図書館に足が向かない、興味がわかないという原因にもなっていると思います。貸出の予約をしても、人気本は300人、400人の列の最後尾に並び、半年とか1年後ぐらいに、こういう本だったんだという状態です。それはどうにかなるかわからないですけど、その辺も貸出数が伸びない一因ではないかと感じております。

那珂会長 モビリティが発達した高度経済成長期以降、図書館のネットワークも広がっていき、今に至るわけですが、経済不況の中で交通の便も悪くなって、1時間に1本、もしくは2時間に1本という地域も増えてきているわけです。それから超高齢化社会になっていくということで、そこをどうするのか。デイサービスの車が巡回をして、いろんな家に止まって、高齢者を乗せて施設に向かっていますが、巡回サービスも、今後必要になってくるのではないかと、話をお聞きしながら思いました。

豊田副会長 図書館の話ではないかもとおっしゃられましたけれども、実はど真ん中だと思っていて、「静岡市立図書館の使命、目的とサービス方針」の使命②の目的③のサービス方針④で、「図書館サービスを利用できない地域や時間帯を減らすことに努めます」と図書館が高らかに宣言しています。これをどういうふう to 実現していくのかというのは、今まさにこの時点においても、図書館にとっては一番大きい課題の一つだと考えてよろしいと思います。特に今、図書館に限らない生涯学習施設の最適化が話題になっておりますけれども、それでも、これをどうするんだというところは協議会としても言っていかなければいけないと思っています。

那珂会長 超高齢化社会に既に突入しているわけですが、図書館サービスを利用できない地域、あるいは行きたくても行けない利用者の方も増えてきています。それから、情報格差の問題も深刻になりつつあると思います。図書館アクセスの不備などの問題点を解消していくことは、図書館の基本的な大きい使命の一つでありますから、今後、図書館協議会の中で、こういうテーマについては議題に上げていきたいと思っております。加えて、地震、災害

が各地で起こっていますので、災害への安全性への対応、対策も今後は必要になってくる
と思っております。このあたりを今後の協議会の中で、議論していきたいと思っております。

(2) 令和 8 年度事業計画

事務局（サービス係長） 令和8年度事業計画を報告

事務局（中川主任主事） 図書館の電子サービスの取組状況について報告

那珂会長 ただいまご報告いただきました令和8年度の事業計画、および電子サービスのご説明に
対して、委員の皆様からご意見、ご質問ございましたらよろしくお願いします。

豊田副会長 60ページに予算が掲載されておりますけれど、事業のご説明をいただきましても、予算
的裏付けがどうなっているかというのはわからないと合点がいかない部分もありますので、
予算につきまして前年度と比較して特徴的なところだけでもぜひ教えていただければと思
います。

事務局（サービス係長） 令和8年度の特徴としましては、全庁的な話になりますが、費用の見直しをし
ております。そのため図書資料費は約 300 万円の減額となっています。一方で、セルフ貸出
機の導入について、使用料及び賃借料を増額しています。また、図書費は減額しています
が、電子図書館の費用、コンテンツ料を増額しました。これは、先ほど電子サービスの取組
状況についてお話ししましたが、その際に委員からお話いただいた、交通アクセスが悪い等、
図書館を利用しにくいとかいうなかで、図書館に来なくても使えるサービスや、図書館に来
なくても申請ができるサービス等、電子化に力を入れており、そういった利用者を増やす取
り組みにもつながると思っています。

豊田副会長 電子書籍関連以外ですと修繕料が増えているんですかね。このところを教えていただ
ければということと、電子書籍の増額についてはコンテンツを増やしたという理解でよいで
すか。

事務局（サービス係長） 電子書籍につきましてはコンテンツ料を増額しました。

事務局（管理係長） 修繕料については薬科図書館、御幸町図書館の空調設備や清水中央図書館の
二酸化炭素の消火設備の更新などで、金額が大きくなっております。

永田委員 電子サービスの広報で、SNSで情報発信とありますが、自分は興味があるのでホームページは何回も見させていただいています。職場の若い人は圧倒的に Instagram を見ていて、私も Instagram でお薦めの本の情報を見て、本の検索をするという流れでやっているの、Instagram があるといいと思います。

那珂会長 2 年ほど前の静岡県図書館大会の分科会で、同志社大学の佐藤翔先生が SNS の年代別の利用の話をしてくださいました。そのときにも、10代、20代の若い世代は Instagram をよく使っている。LINE は決まった人同士のコミュニケーションに使っているの、特に外からの情報を見るツールとしては多分使っていない。それから、旧 Twitter 現在の X はおそらく 30代、40代が使っている。フェイスブックになるとほとんど日本では使っている人がいない。50代以降はメールをよく活用しているというお話がありました。そういったことも踏まえると、受け手がどのようなもので受信しているのかということも調査をして、Instagram の方が若い人にはいいのかなと僕も思っておりますけれども、情報を発信する際のツールをご検討いただければと思います。

事務局（サービス係長） 1点補足させていただいていいでしょうか。先ほど使用料及び賃借料の資料の増額は電子書籍という話をしましたが、全部が電子書籍ではなく、電子書籍の予算額は 940 万円で、300 万円強増額しています。

大橋委員 質問と意見と両方あります。セルフ貸出の目指していることは何かということです。市民の利便性向上とサービスの充実というのは確かに納得できるところはありますが、図書館にとってのメリットを押さえていただけるといいと思います。市民の利便性が高いということは、図書館にとっても利便性があるかなと考えます。多摩の中央図書館の視察に行かせていただいた時に、カウンターにいる職員の数が非常に少なく感じたんですね。多分利便性を追求したときに、見えない裏方で事務的な作業に回ることもできるのも一つの利便性だと思うんですね。静岡に戻って、セルフ貸出機を導入したときに、逆に安心したんですね。カウンターの数は変わらなくて、職員の方がいつものようにいらっしゃる安心感と言いますか、でもセルフ貸出しもできるよという静岡の良さを感じたんですね。人にしかできないところに人を回していくことが、これからの時代に求められていることかなと思うんですけど、そしたら図書館でしたらレファレンスに力を入れていくことも永遠の課題と言いますか、AIレファレンスもできるでしょうけれども、人にしかできないレファレンスを根本的に残していくということ、レファレンスの良さとか魅力をレファレンス体験講座じゃないですけど、図書館としてはこんなレファレンスが、人にしかできない良さがありますということを打っていくことも一つのアイデアかなと思って、質問とお願いと二つ言わせていただきました。

事務局（サービス係長） セルフ貸出機は貸出だけですので、返却は従来どおり職員がやっております。

貸出をセルフにしたのは、待ち時間の短縮というのがあり、混雑するときにセルフ貸出機をご利用いただければ、いつもより早く貸出だけなので終わりますのご案内をしています。また、職員の業務効率にもつながると考えておりますので、レファレンスなど今まで混雑しているとなかなかできなかったようなサービスを充実させようとしています。例えば中央図書館ですと窓口の職員がカウンターから出て、セルフ貸出の利用案内をしたり、あるいは職員が立っていると「この本どこにありますか」などのお声掛けがあるものですから、書架をご案内するなどのサービスを試行錯誤しながら行っているところです。

大橋委員 大変ありがたいです。

那珂会長 御幸町図書館が昨年度の事業で書店と連携をしていますので、書店での取り組み活用事例なんかを書店から聞いたり、書店は結構混んでいるし、書店ならではの何らかの施策なり、集客力を上げるためのいろんなノウハウはあると思いますので、今後そういったことのノウハウを聞きながら、参考にさせていただきたいと思います。一方で、図書館は対面でのサービス、人と人との触れ合いが重要になってきますので、対面サービスの重要性というところも捨てないでいただきたいと思います。

豊田副会長 連携事業は人手が非常に大事で、しかも人と人をくっつけるような資質というか、スキルも非常に重要になってくる場面じゃないかと思っています。ですから、効率化を進めていく一方で、本当に人を必要とする事業として、レファレンスもちろんそうなんですけれども、同時に、いろんな連携事業なども積極的に取り組んでいけるような環境になっていくといいと思っています。最近、公共施設作りの流れが、複合から融合へと変わってきていると感じています。従来の複合施設だと、本来別々にあるものを一つの建物に集めた、悪い言い方をすれば寄せ集めに近いものも少なくなかったですけれども、今は単に同居させるのではなくて、異なる機能同士がどういうふうに結びついて、そこから相乗効果を生んで、新しい公共施設としての価値やサービスなどを作り出していくのかということが問われている状況なんです。そしてその融合の要になるのが実は図書館じゃないかということで、改めて今図書館が注目されています。図書館はいろんな世代、いろんな文化的背景を持っている、あるいは障害がある、社会的な立場が違う、そういう人たちがその違いにも関わらず、誰に対しても開かれているし、それぞれの知りたいとか学びたいとかいうことに答えることができ、支えていく、そういう施設なんです。それは静岡市立図書館の使命の中でも、知る自由を守るとか、まちづくりや暮らしに役立つとか、個性を育てるといような形ではっきり言われてること

なんですけれども、これがそういう複合融合型の公共施設の中で図書館が果たせる役割をよく表している。

今静岡市では生涯学習施設の最適化が議論されているわけなんですけれども、その際に、どうしても面積でこれだけ、あるいは施設数これだけみたいな形で考えられるということになってしまうんですけれども、その一方で、異なる施設とかサービスを融合させることで、どんな新しい価値を地域に生み出していけるのかという視点はすごく重要だと思っています。問題は資源がないということよりも、資源同士が十分に繋がってないことにあるかもしれないと思います。先日美和図書館友の会の方から、コンサートを行う際に、図書館単独ではなくて、アカデ美和（生涯学習センター）と共催するという話を聞きました。それはとても面白いし、頼もしい話だと思いました。行政組織としては別々の施設なんだけれども、市民の側がすでに融合を作っているという動きもあるんだなと思ったんですね。

静岡市内の多くの図書館は市民の運動や働きかけをきっかけに生まれてきた歴史があるわけですけど、これからの融合というのも市民もやっていく、図書館と相手方の行政も一緒に作っていくというものなのかなと思っています。

最後に一つぜひ申し上げたいのは、生涯学習施設や公共施設の配置を検討していく際に、どの施設を残して、どの施設を減らすかという量的な議論だけではなくて、図書館を含む施設同士をどういうふうに融合させて、市民の暮らしや学びをどういうふうに豊かにしていくのかを検討の軸として位置付けていただきたいと思います。

那珂会長 図書館の有機的な機能をどのように構築していくのかというところは、ある意味、図書館理念の大きい基本だと思います。そこのところのご指摘だったと思っております。キーになるのは、やっぱり人なのかなと思います。市民が参画できるような、あるいは主体的に市民が参画するような図書館サービスを、今後作ってってもらいたいと思いますし、図書館同士の連携、あるいは図書館と外、関連類縁する施設、団体との連携は予算的に難しいところはあると思うんですけれども、連携をするためだけの予算を毎年作って、その予算の中では自由な発想で、どんなものでも使える、ある程度柔軟に予算執行できるような枠組みをぜひ作っていただくと、この予算の中だけでは連携できるということで、小さい予算から始めて全然構わないと思うので、進めていっていただきたいと思います。

時間がきていますので、事業報告・事業計画について、委員の皆様からご質問・意見等ございましたら、中央図書館事務局の方に直接メール等でお出しいただければと思います。それでは、その他で、事務局の方から、よろしくお願いします。

事務局（管理係長） 静岡市では今年度から第5次総合計画がスタートしております。第5次総合計画では、2050年の人口目標55万人をふまえ、現在市内にある700を超える施設の新たな

配置適正化を考えていきます。この中には、小中学校、こども園、市営住宅、勤労者福祉施設、生涯学習施設、老人福祉施設、スポーツ施設、図書館など、様々な形態の施設が含まれております。現時点で図書館は具体的な配置や機能の方向性など何も決まっておりません。

なお、市では、8月12日から公共施設の利用状況に関して、施設の使いやすさや満足度をお伺いするための施設利用者アンケートを行っております。アンケート用紙は該当施設、各図書館に置いてあります。利用者アンケートの対象施設は、産業振興系施設、老人福祉施設、生涯学習系の施設、スポーツ施設、図書館です。またオンラインでも調査を行っておりますが、こちらは市内全ての施設が対象になっております。アンケートへのご協力よろしくお願いいたします。アンケートは28日までです。

那珂会長 アンケートの結果で、図書館と関わる場所についてはレビューをして、次回図書館協議会でアンケートをもとに、施設の配置検討を始めるという方向ですか。

事務局（管理係長） こちらのアンケートは、社会共有資産利活用推進課が市内全ての700を超える施設を対象にアンケートをとるというものです。図書館には、紙の用紙が置いてあるので、アンケート用紙からお答えできるようになっているということです。図書館で行っているアンケートではないので、集計結果は社会共有資産利活用推進課が公表します。

勝山委員 今のご説明について危惧していることがあって、静岡市では全ての公共施設に対して、効率的な資産運用の評価を進めているということです。当然これが図書館にも及んでいて、アセットマネジメントの資産運用なので、数値的な部分での評価ということになります。文化施設である図書館もそのような数字のみの判断というのは馴染めないと思いますけれども、美和分館の統廃合について、地域の方からお声をいただきました。

現時点ではゼロベースの話だということで、安心はしたんですけども、直近では番町市民活動センターが統廃合の対象になりまして、地元では非常に大きな議論を呼びました。結果的には、当面存続見直しという形には落ち着いたんですけども、予断を許さない状況。アセットマネジメントを見ると、美和と麻機が利用者が著しく減少しているという文言があって、見直しの対象になり得るのではないかと危惧しております。例えば美和ですと、学校図書館の連携がかなり進んでおります。もし見直されると、学校間格差の拡大、あるいは教育の機会均等の減少といったようなことも危惧される。さらには、地域の文化拠点としての位置づけ、この辺りも非常に危うくなってくる。先ほど豊田委員からも、これからは複合から融合だというお話をいただいた。その中で一番大事なのは、人だと思えます。

図書館として何を守り、何を育て、何を目指していくのかという図書館の理念、まさに静岡市の図書館の使命。これを行政がしっかりと理念として把握して持っているか、それによって、ともすると営利施設にその舵を取られかねない状況に今なっている。そういうことは公共の財としてあってはならないことなので、そのあたりも含めて、この協議会でしっかり見ていきたい。

那珂会長　協議会としてもしっかり見ていきたいと思いますし、具体的な方向性が示されたら、ぜひ協議会の中で検討をして、協議会としての意見を図書館に伝えていきたいと思います。時代も変わってきますし、予算が現実的にはなかなかない、効率化も進めなければいけないという変化の中で、図書館の機能やサービスをどのように維持していくのかというのは非常に難しい課題だと思いますので、そこは連携とか、図書館がどのように人と人を結びつけていくのかというところ、新しい地域のあり方を今模索しているところなんだけども、やっぱり要としての図書館がそういった意味では主導をして、新しい地域サービス、公共サービスのあり方、方向性というのを図書館が示していく、そういうリーダーになっていければと思いますので、ぜひまた協議会で、静岡市の図書館の活動に支援、いろんな意見をさせていただいて一緒に新しい方向性を作っていきたいと思っておりますので、ぜひとも今後ともよろしくお願いいたします。

以上で、本日予定していた議題は終了とさせていただきます。

8 閉会